2026年11月13日

各　位

会社名　monoAI technology株式会社
（東証グロース・コード　5240）
代表者名　代表取締役社長　本城　嘉太郎
問合せ先　取締役管理本部長　松岡　壮
電話番号　03-6273-2753（代表）

2026年12月期の通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

記

1．通期連結業績予想の修正

（1）2026年12月期の業績予想値の修正（2026年1月1日～2026年12月31日）

	売上高	営業損失（△）	経常損失（△）	親会社株主に帰属する当期純損失（△）	1株当たり当期純損失（△）
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	858	△267	△263	△291	△23.72
今回発表予想（B）	600	△476	△451	△469	△38.24
増減額（B－A）	△258	△209	△188	△178	-
増減率（％）	△30.1	-	-	-	-
（参考）前期実績（2025年12月期）	980	△390	△382	△336	△27.41

（2）修正の理由

当社グループは、2026年12月期を「事業構造の転換期」と位置付け、子会社売却や不採算事業の整理等のポートフォリオ再編を進めるとともに、AIエージェントをはじめとするAIソリューションの外部販売を第1四半期より開始し、下期にウェイトを置いた事業計画のもとで収益化に取り組んでまいりました。

しかしながら、先進的なAIエージェントを開発しておりましたが、AI関連技術の急速な進歩と、競合製品が多数リリースされたことにより、その販売が影響を受けることになりました。また、AIソリューションの受注についても、AIによるコーディングの高速化、簡易化により、参入企業が増え、競争環境が激しくなり、計画どおりに進みませんでした。AI関連の売上高は、当初計画305百万円に対し154百万円下回る151百万円となる見込みです。

また、XR関連においては、既存顧客からの継続受注等により一定の受注を確保しているものの、新規案件の獲得の遅れ等により計画を下回って推移しており、XR関連の売上高は、

当初計画 553 百万円に対し 104 百万円下回る 449 百万円となる見込みです。以上により、全社の売上高は前回発表予想 858 百万円から 258 百万円下回る 600 百万円となる見込みです。

費用面では、売上原価に占める人件費等の固定費の比率が高いことに加え、成長分野への事業構造転換に向けて、フィジカル AI 領域を中心とした研究開発投資を継続しており、研究開発費は通期で約 123 百万円を見込んでおります。このため、売上高の減少幅に対して費用の圧縮幅は限定的となり、営業損失は△476 百万円となる見込みです。経常損失は、営業外収益として補助金収入 18 百万円を計上したこと等から、△451 百万円となる見込みです。

親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、上記に加え、特別損失として減損損失 8 百万円等を現時点では見込んでいること等から、△469 百万円となる見込みです。

以上の理由により、売上高および各段階損益が前回発表予想を下回る見込みとなったため、上記表のとおり通期連結業績予想を修正いたします。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以　上